

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 118 回 知らずは恥にあらず！誰でも最初は初心者マーク！！

(飯島一敏)

以前、自動車免許の試験に落ちた時、いかにも恥ずかしく、カッコ悪く、身の心も沈んでいた。その時、自動車学校の教官が僕に優しく言ってくれた言葉がある。

『わからないこと、できないことは恥ではない!!誰もが始めは初心者なのだから。』

この一言で、随分僕の気持ちは癒され、勇気を与えて頂いた、忘れられない言葉である。

今年の夏の出来事であった。

僕はボランティアに積極的に参加しており、その中で、小学生高学年を連れて、山へキャンプに行く事になった。そしてその夜は、みんなでキャンプファイヤーと花火をやる予定になっていたのである。キャンプファイヤーは 30 人の子どもたちが松明^{たいまつ}を持ち、みんなで一斉に火をつけるということになった。

日も沈み、いざ本番...だったのだが、本番直前、子どもたちが松明を持ちたがらない。理由を聞いてみると「火は危ないから」「火は怖いから」とみんな一様に応えている。結局、ボランティアの何人かでキャンプファイヤーに点灯したが、小学生の中には何人か、花火すら、火をつけられない子もいた。

みんな、火に嫌な思い出でもあれば話は別だが、話を聞いてみるとほとんどの子が火傷^{やけど}すら負ったことがない子ばかりだった。その子達は、火は危ないもの、怖いものと教えられ、その先入観のみで判断してしまっているようである。

子どもたちも、火は使い方をちゃんとすれば大丈夫と教え、何よりも火から保護するのではなく、火を経験させてあげることが大切なのだと思ってしまった。

「火」というか「花火」すら、まともに扱うことのできない小学生、その実態を真正面から見てしまった実感は、何かやたら、異様な気分になってしまった。「火」を扱えない子供たちは、確かに「火遊び」をしなくて優等生だが、本当の「火」の怖さを知る由もなく、真に危機が迫った時の対処法など、無知そのものといっていいただろう。

様々な情報が乱立する昨今、多様な情報を僕たちは本や新聞、テレビなどで知ることが出来る。しかしそれは本当に分かったといえるのだろうか？苦労や失敗、コツや成功の喜びなどを経験してこそ、本当に分かったといえるのではないだろうか。当然、読んだり見たりで知識を得た人は、経験した人には及ばないかもしれない。わからないこと、できないことは恥ではない!!誰もが始めは初心者なのだから...でも...やってみよう!!そして、時には恥をかくことも大切な経験なのだ!!と、あの、自動車学校の教官の言葉が思い出されて仕方がない。...誰でも最初は初心者なのだから... (投稿者 飯島一敏)